



極地研究所のアーカイブ室について

国立極地研究所 アーカイブ室
大坂亜紀子・神田啓史・野元堀隆・山内 恭・工藤 栄

アーカイブ室の歴史

極地研究所創設当時に設置された資料系非生物系資料部門から枝分かれし、その後観測協力室や広報室など各部署で保管していた資料を取りまとめ保管活用する部署が必要という議論が行われた

2010年4月、立川移転に伴いアーカイブ室が設置される



1980年頃 資料室
犬ぞり・写真パネル・衣類など

沿革：

資料系非生物系資料部門の設置

(第一次南極地域観測隊: 1956(昭和31年))

1960年5月、日本学術会議は「資料の整理・保管・研究に関する恒久的機関」について政府に勧告。

1961年5月、日本学術会議は極地研究所（仮称）の設置について政府に勧告。

1973年9月、国立大学共同利用機関として国立極地研究所を創設、研究系4部門と**資料系2部門（生物系資料部門及び非生物系資料部門）**が設置される。

2006年10月、極域科学資源センターが設置され、生物系資料部門が改組。一方、非生物系資料部門の一般資料は研究所設立以来、約30年間資料が管理されてきたが、**資料の管理業務は事業部、広報室に移管。**

2012年4月、アーカイブ委員会において、移転時の収集資料、板橋時代に管理されていた**一般資料をアーカイブ室が一括管理**することを決める。

広報室の設置

2000年以前

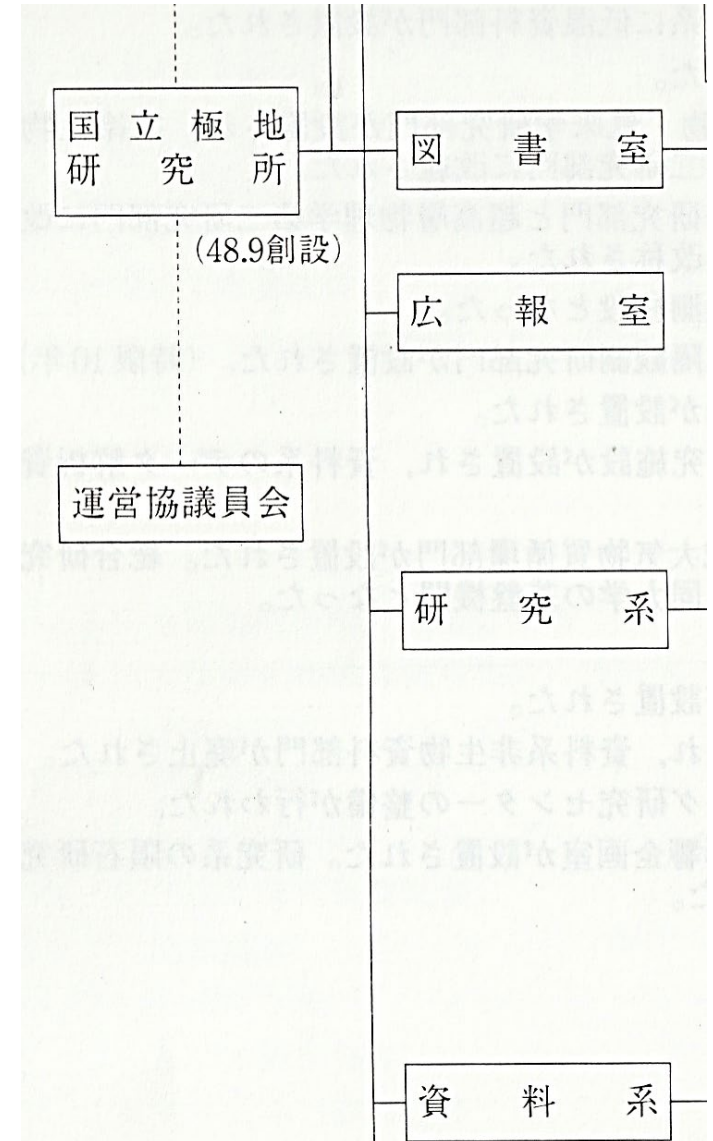
広報関連の業務は**管理部庶務課**におかれていた。庶務係が研究所要覧、職員録、極地研ニュースの編集、発行を担う（出版物の発行の遅れが目立つなど、見直しが検討）。

2001年5月:

広報委員会の役割、課題、方向性について検討。作業は**教官が主体的**に行い、各研究グループで広報担当を決め、実質的な情報収集、広報活動を行なう。

12月:広報委員会の組織、規則の改正を行い、第1回広報委員会開催、広報活動全般の見直しを開始。

2002年4月広報室設置（初代室長神田啓史）



アーカイブ室の設置

2008年10月16日、共同利用機関アーカイブズグループの国立極地研究所訪問、研究会。出席者：木村一枝、木村克美、関本美知子、高岩義信、難波忠清、野口邦男、松岡啓介、（極地研）神田啓史、広報室係長、図書係長。大いに啓発を受ける。

2008年11月、研究所の立川移転に際し、価値ある史料や物品の散逸を防ぐため、所長室会議のワーキンググループとして、「移転に伴う文書、物品のアーカイブス取り扱いの検討グループ」（座長：神田啓史教授）を設置。

2008年12月、検討グループ会議開催。管理部長、事業部長、同課長、データセンター長（山内）、北極観測センター長（神田座長）、情報図書係長が参加
所長の弁明。その後の評価に基づき、位置づけを検討し、2年後に、所長裁定の所内措置として設置。室長は、副所長が兼務、実務を担当する職員を配置し、史料の編纂のため、アーカイブ室（仮称）を確保する方針。

2010年4月、アーカイブ室（初代室長山内 恭）を設置

板橋→立川移転前に制作された映像

学術情報アーカイブズ 国立極地研究所 板橋時代の記録





2023年現在、研究所教員は2系
(大多数が兼務)

先端研究推進系: 研究グループ
共同研究推進系: センター・室

施設

アーカイブ室 (39
m²)

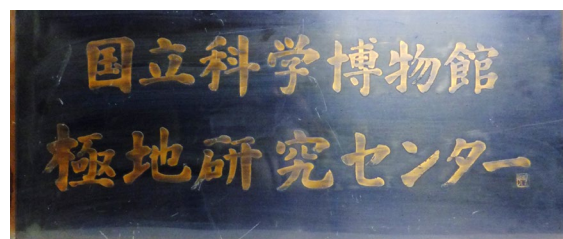
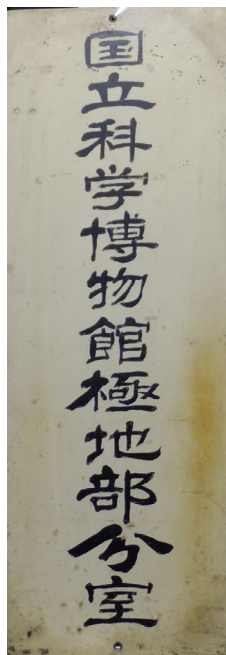
アーカイブ作業庫
(50m²)

アーカイブ資料庫
(137m²)



極地研の歴史資料

文書・写真の他、科博時代の看板や板橋キャンパスのマンホール、定礎の石（南極の石で作られている）といった当時をしのばせる資料も残っている

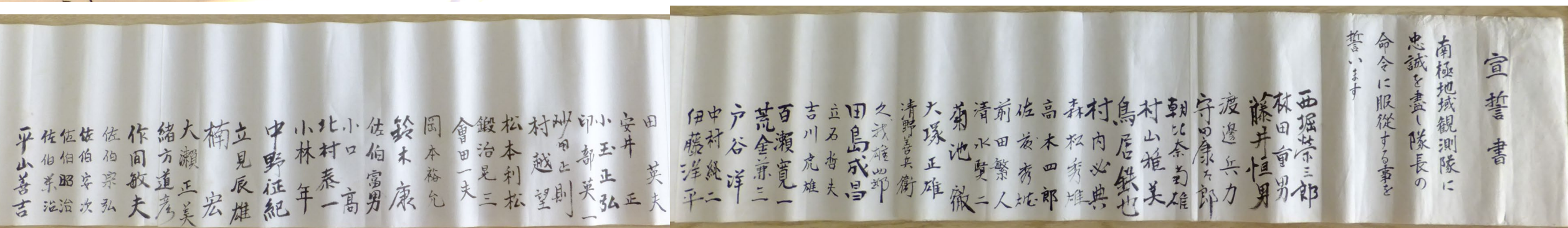
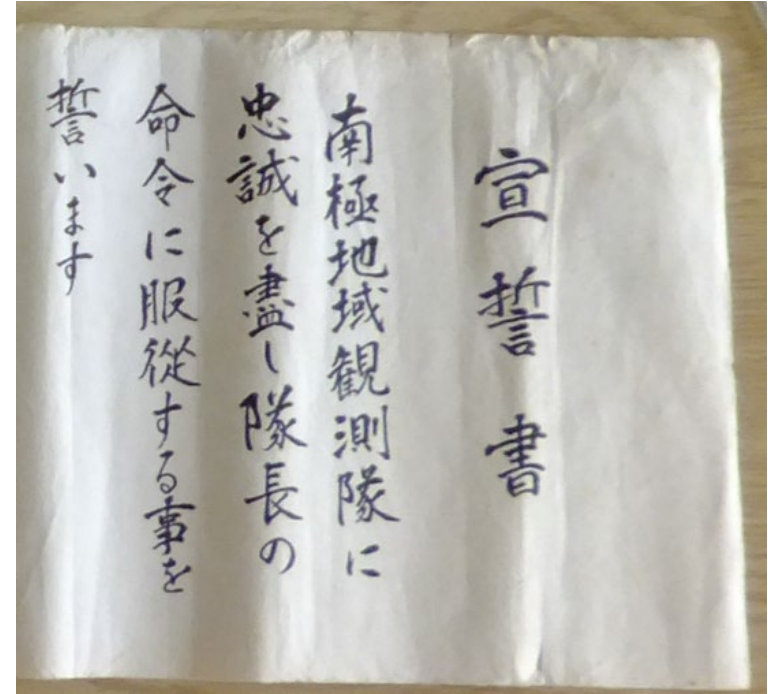


国立科学博物館から
極地研へ



日本南極地域観測隊(JARE)の歴史資料

第1次隊から現在越冬中の64次隊に至るまでの各種資料を所蔵



第1次南極観測(1956)以降の映像資料



専用の棚に立てていたが、フィルム下部に重量がかかり良くないとのこと



何十年も開けていないフィルム缶



移転後は空調のある資料庫に保管していたが、酢酸臭によりエアコンが壊れたことを機会に、保存方法を見直した。

ケースに入れたままでは劣化が進んでいくが、保存状況を良くするために現状の設備ではこれ以上出来ることがなく、専門の機関に任せた方が良くという案が出た。



公式映画の原フィルム、貸出用コピーをはじめ、編集前の映像など522本を国立映画アーカイブに寄贈した(2020年)

その後も整理により238本のフィルムを発見・寄贈があり、現在デジタル化を進めるとともに国立映画アーカイブへの寄贈準備を進めている。

フィルム棚に入らない大型の物など

ホームページでの管理・保管史資料の公開（紹介）

アーカイブ室 Archives Section



歴史的資料を次代へ引き継ぐために

アーカイブ室は、国立極地研究所の立川移転を受けて2010年4月に設置されました。研究所の研究活動の過程で、歴史的記録をとどめている公文書、刊行物、写真、図版、図面、音声、映像、電子記録、観測機材、設営機材、装備、衣類、および個人資料などの収集・整理・保管・管理を行っています。

100年以上前の白瀬盛の南極探検にまつわる資料から、関連の研究資料、日本南極地域観測が始まる前からの資料、第1次隊以後の南極観測資料、北極研究に関する資料、特に映像記録なども多数保管しています。

Documents and records that tell the history of JARE and NIPR

The Archives Section was established in April of 2010 when the National Institute of Polar Research (NIPR) moved to the Tachikawa campus. The materials collected, arranged, and kept in the section's custody publications, photographs, figures, audio materials, films, digital records, instruments, equipment, clothing, and personal items. These records support historical evaluation of institutional activities and help NIPR fulfill its social responsibilities.

所蔵資料：写真・映像・文書記録・機材 など・看板など・北極関連・その他

所蔵資料

写真



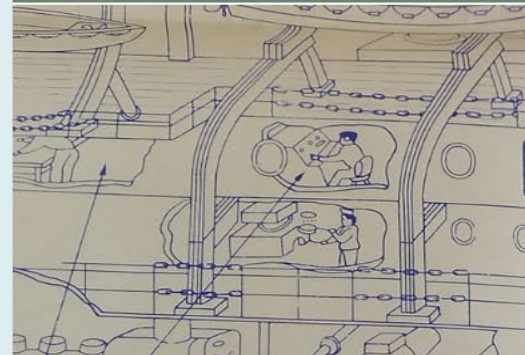
- » (1) 写真データベースについて ★2019年8月一般への公開を開始しました★
- » (2) 写真ギャラリー 興味深い写真を抜き出して紹介しています。

映像



1次・3次隊の映像から厳選して紹介します。新たに寄贈された貴重な映像もあります。

記録文書



歴史的記録をとどめている非公文書（非現用法人文書）、刊行物、写真、図版、図面など多岐にわたって収集し保管しています。

機材・装備・記念品等



現地で使用された観測機器類や、衣類、雑貨、記念品等、観測の歴史や極地の暮らしを語る物品を広く収集しています。

看板が語る極地研究所の歴史



極地研究所の顔、歴代の看板を紹介します

北極関係資料



北極研究に関する各種資料を保存しています。

南極へ行った猫 たけし



日本でただ一匹、南極で越冬した猫のたけし。南極で活躍する姿をご覧ください。

観測隊スタンプ



1次隊から継続して作成しているスタンプを年表とともに一覧でご覧いただけます。

映像をクリックすると

映像

1次隊からの公式映像など、貴重な映像のデジタル化を進めています。
オリジナルフィルムは環境の整った所蔵庫に保管しています。



2014年現在の公式映像等所蔵数
南極観測公式映画（ポジ）48本
公式映画原版（ネガ）48本
デジタルBetacom 原版（β-1-48）
ポジ保存版⇒ユーマチック、31本
レーザーディスク（63本）⇒DVDに移行
ニュース映画（28本）1～5次隊⇒デジタル化
他社映画

岩波映画、毎日映画社、読売映画社、日映新社、共映産業、共映

映画フィルム内訳

1. 公式記録映画

原版：公式記録映画 47作品 DVD化
公式映画保存ポジ 18本
公式映画貸し出し用ポジ 33本

2. ニュース映画 28本

3. 外国記録映画 17本

4. 訓練等記録映画 8本

5. ビデオ(DVCAM)素材

6. 公式映画ネガ、ラッシュ 150本 未整理

2017年に発見された、第3次隊長 永田 武 氏撮影の映像を追加しました。タロ・ジロと永田武など、貴重な映像を紹介しています。

→ [映像](#) 2ページ目をご覧ください。

動画再生も

第1次越冬隊員 村越 望 氏撮影の8mmフィルムから一部をご紹介します。2015年に寄贈された資料で、かなり劣化が進んでいたためデジタル化した映像に乱れがあります。



ぼくらは樺太犬 - 船旅 -

「No.1 接岸まで 第1次越冬」より
宗谷船上の様子。シンガポール〜ケープタウン間。犬たちの船旅は暑くて辛そうに思えますが、実は犬用の船室だけクーラーが付いていました。



たけしのニャン極観測

日本で唯一南極で越冬した猫、たけし。
縄張りを今日もパトロールしています。
たけしの映像は大変貴重です。



宗谷出航

出航前の雪上車積み込みから、出航直後までの様子です。出航後も見送りのポートやヘリが次々とやってきます。

北極関係資料



ニーオルスンに咲く花
Caryophyllaceae

1990年に北極圏環境研究センターが発足しました。その後、北極観測センターを経て、2015年から国際北極圏環境研究センターとして運営しています。

それ以前からの北極研究に関する各種資料を保存しています。

画像データベースには1,382件の写真が登録されています。

北極の美しい植物写真を中心に、調査の様子等の写真を多数所蔵しています。

じゃこう牛



シロクマ



ホッキョクウサギ



Calluna vulgaris



Pedicularis langsdorfii



Pedicularis langsdorfii
Dempster Highway, Yukon Territory
Canada デンプスター・ハイウェイ
ユーコン準州 カナダ

Polemonium acutiflorum



Polemonium acutiflorum
North Fork Pass, Yukon Territory
Canada ノースフォーク峠 ユーコ
ン準州 カナダ

Arctostaphylos rubra



Arctostaphylos rubra
North Fork Pass, Yukon Territory
Canada ノースフォーク峠 ユーコ
ン準州 カナダ

ブロッカー氷河上のクリオコナイト



ブロッカー氷河上のクリオコナイト
北極圏氷河学術調査 Japanese Arctic
Glaciological Expedition JAGE93
スヴァールバル Svalbard ノルウェー
Norway

Saxifraga aizoides



Saxifraga aizoides
Dempster Highway, Yukon Territory
Canada デンプスター・ハイウェイ
ユーコン準州 カナダ

南極観測黎明期に携わった方々からの資料の提供

寄贈資料

北村コレクション



第1次・第3次観測隊員 北村泰一氏寄贈資料です。

村山コレクション



第9次隊で日本人初の南極点到達を成し遂げた村山雅美（極地研究所名誉教授）に関する資料です。

谷口資料



日本極地研究会創設に関わり、白瀬蘆の研究家、翻訳家として活躍された谷口善也氏が収集された資料です。

その他の寄贈資料



日本南極地域観測隊員・観測船乗組員などから寄贈された資料です。

史資料の利用について

資料の閲覧・貸出



アーカイブ室所蔵資料に関するお問い合わせは**国立極地研究所 お問い合わせフォーム**からお願いします。

アーカイブ室では、独自の展示・閲覧スペースを提供していません。所蔵資料をご覧になりたい場合は、事前に国立極地研究所 **お問い合わせフォーム**からご連絡ください。

また、ウェブサイトの画像提供、その他報道・取材・掲載の一環として所蔵資料の貸出をご希望の方は、**取材・掲載フォーム**からご連絡ください。

所蔵資料の他に、研究のための書き込みがあるような書籍は、アーカイブ室で保存している場合もあります。

書籍の閲覧は**情報図書室**をご利用ください。

極地研デジタルアーカイブ 運用ガイドライン

極地研デジタルアーカイブは、下記のガイドラインに沿って運用しています。

- Webページで見る
- PDFを開く

写真のご提供（奇贈）について

一般（マスメディア等を含む）利用を促進した活動：写真記録の公開



写真



写真のデジタルアーカイブを公開しました。
旧・画像データベースから移行した物と新たに登録した画像を合わせて、1万4千点を超える写真が登録されています。（2019年8月現在）
その他にもデジタル化されていないネガフィルム・オリジナルのネガが無い写真など多くあり、順次デジタル化・データベースへの登録を進めています。
[» 国立極地研究所 写真デジタルアーカイブへ](#)

こちらの写真ギャラリーでは、特色ある写真を抜粋して紹介しています。
デジタルアーカイブからオリジナルの写真の閲覧ができます。

[写真ギャラリーへ](#) 

写真	写真ギャラリー 	映像	記録文書	機材・装備・記念品等	看板が語る極地研究所の歴史	北極関係資料	南極へ行った猫 たけし 	観測隊スタンプ
北村コレクション	村山コレクション	谷口コレクション	その他の寄贈資料	資料の閲覧・貸出				

極地研デジタルアーカイブ

2019年8月に公開

旧・画像データベースを基に所内で開発

2023年8月現在、**19,000件**を超える画像が登録されている。

主に写真のスライドやネガはアーカイブ室が所蔵し（45次隊前後まで）デジタルカメラのデータは広報室へ提出され、それぞれが整理・公開している

（現状はフィルム時代の写真が主、今後、デジタル写真を取り込んで拡充する）



The screenshot shows the NIPR Image Archive website. At the top, there is a navigation bar with the ADS (Arctic Data archive System) logo, the title "NIPR Image Archive", and a language selector set to "日本語 (Japanese)". Below the navigation bar, there are search and navigation options: "Top", "List", "Tile", "Region · Category", "Search", "メタデータ検索", "Search", "ログイン", and "管理". A large banner image features a polar bear on the left and a penguin on the right, with the text "国立極地研究所 デジタルアーカイブ" in the center. Below the banner, there is a paragraph of text in Japanese: "国立極地研究所では、立川移転を受けて以降、これまで収集された写真のデジタル化を進めてきました。本国立極地研究所デジタルアーカイブでは、南極地域では、日本南極地域観測第1次隊以降の写真を公開しています。また国立極地研究所の研究活動の過程で収集された、北極地域やその他の地域の写真も公開しています。" Below this text is a link: "ウェブサイトの問い合わせやご利用についてはこちらをご覧ください。" At the bottom, there is a sidebar menu with the following items: "画像一覧表示", "画像タイル表示", "領域・カテゴリ別登録状況確認" (with sub-items: 南極, 北極, 日本, アジア, ヨーロッパ, その他, 無し), "メタデータ検索", "アノテーション検索", and "Keywords Code 一覧".

波及効果例



第1次南極観測隊が出発する直前、ある人から託された一匹の三毛猫。

雄の三毛猫は珍しく縁起がいいとされ、航海の安全を願って宗谷に乗せられました。

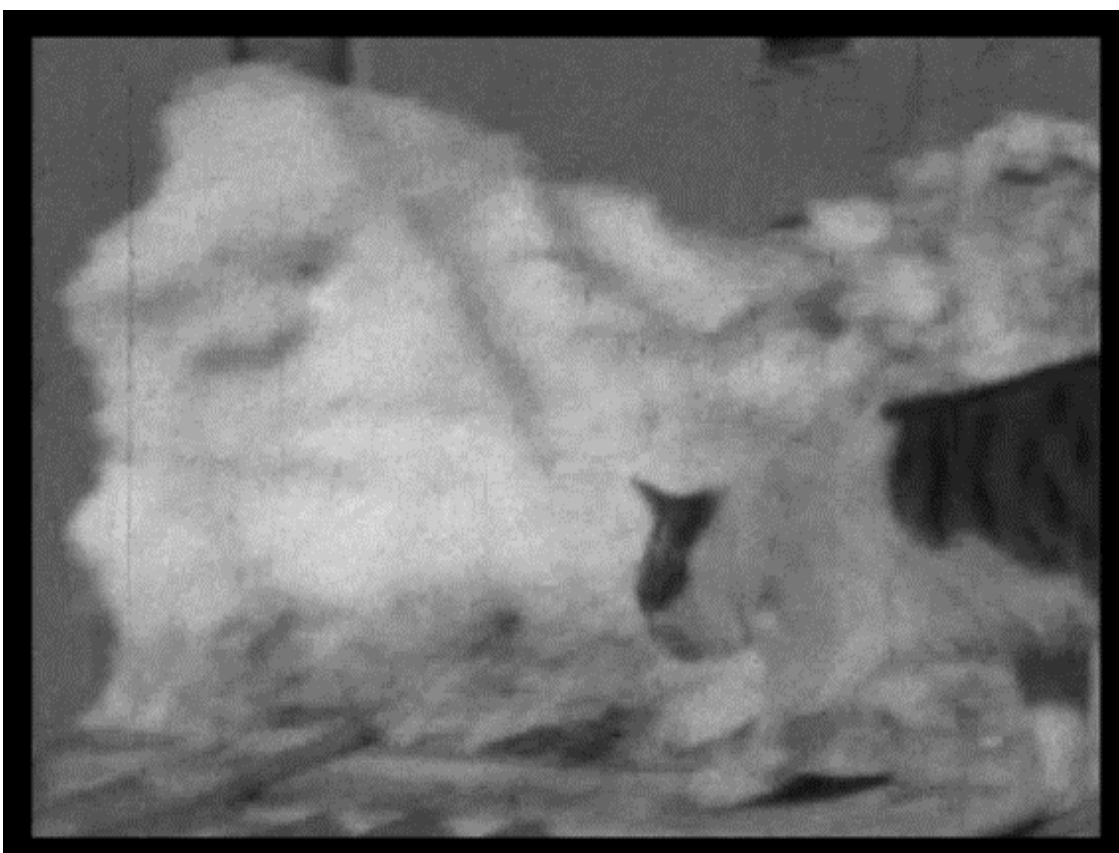
そして観測隊の一員となった三毛猫は、永田武隊長の名前をもらい「たけし」と名付けられました。

日本でただ一匹、 南極で越冬した猫 「たけし」 と アーカイブ室

「南極観測60周年」記念イベントや
南極・北極科学館で紹介ポスターを掲示
アーカイブ室Webサイト公開にあわせ、
たけしの特集ページを掲載

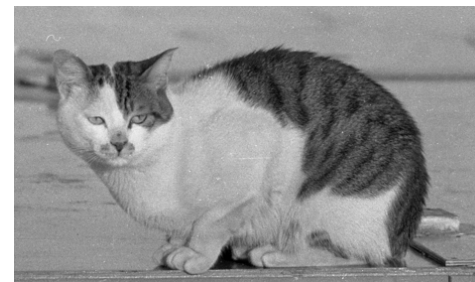
↓
雑誌「猫びより」掲載を皮切りに、
NHK「もふもふモフモフ」など
ペット・動物番組でも紹介される

↓
「猫の日」には、SNSで話題になるなど
すっかり有名な猫になった



第1次越冬
村越望隊員撮影
8mm映像
(1957年)

2015年寄贈



2023年8月、極地研50周年に合わせ フェリシモ×極地研 たけしグッズが発売される

50th ANNIVERSARY 極地研 National Institute of Polar Research

猫部 ねこぶ



たけしと
お揃いの
ベストです！



メンズサイズもあります



会場内に展示しています

キーホルダーや、
写真立てにもなる
クリップ
ミニバッグなど
いつでもたけしと一緒に



最近の話題

白瀬南極探検隊が
持ち帰ったペンギン剥製の寄贈



低温室から4次隊当時の携帯食料が
発見される
外国からサンプルとして送られた
もののようである

60年の時を経て、お味は…！？



南極・北極科学館で展示中

極地の研究試料のアーカイブ (管理保管と利用)

極域科学資源センターが極地から採集した隕石・岩石・生物試料を保管管理、研究や展示などへの活用を行っている。

中でも「KANADA HERBARIUM (仮称)」は、コケ植物を中心に約4万点の標本を収蔵、データベース化までされた整理・活用ができる貴重な極地研究資産、と言えるのだが、人員と予算措置がない現状のまま、残念なことに休眠状態。



午後の見学ツアーで神田が解説・紹介予定